



池田 宏

かぐらみつまたスキー場エリアの 携帯電話使用可能対策を図れ

かぐらみつまたスキー場エリアの携帯電話使用可能対策を図れ

質問

世はまさに携帯電話の時代であります。10月に観光立町宣言が予定され、観光を主軸産業としている我が町は来町者にその不便を与えてはならないと思います。総務省の補助制度を使って早急な対策が出来ないか伺います。

町長答弁

これまでもドコモに掛け合ってきたが採算の点で断られてきた。総務省の補助制度は携帯通信会社がサービスの提供事業をする時に利用する制度であります。難しいが今後も対応していきます。

三俣振興対策について

質問

清津川ダムが中止になって早くも2年が過ぎました。8月25日に地元三俣未来まちづくり協議会から国、県、町で構成をしている三俣地

一

般

質

問

区地域整備検討会に要望が提出されました。今後は要望事項が早急に検討され実現に向かつて着手される事を願うものであります。しかし地元は今後の検討協議が国・県・町の三者でなく地元を入れた四者による検討協議を強く要求してきました。住民の代表である町長は国、県にその必要性を要望して四者による検討協議が一刻も早く行われ、その中で36年間の地元に対する政治と行政の遅れを真摯に取り組む決意を以て、またこの振興対策事業は通常とは違う事を説き現行法に拘わらない対策を国、県に強く求めていくべきと思っております。今後の対応を伺います。

町長答弁

地元から要望された四者による検討協議については、地元が明確に位置付けられるよう規約も含めて四者の中で協議をしていく事に致しました。36年間もの長い間地元の皆様にかけて苦渋を考えるときに、その振興対策は現行法を超越した対

策で行う事を国、県に要求していただきます。芝原トンネルについては国が重要施策に入れて17号線改良の中で対応しています。清津川改修についても16年度の調査で行っています。温泉問題は国、県で難しいといっています。長期的課題として対応していきます。地元との信頼については更に努力していきます。

清津川に清流を戻すべきである

質問

大正12年清津川から毎秒6・12トンの水が流域の異なる魚野川に流されて以来、清津川は海から魚の上つてこない川になりました。また昭和33年に8トンの水が流されて更に水のない川になっていきます。三俣の振興対策には貴重な資源の喪失



かぐらみつまたスキー場 携帯電話使用可能対策を急げ

であります。魚野川下流三町は更新を今のままとしているが、その中に我が町長の名があるが町長は我が町民のためにあるのです。17年12月の更新の対応を伺います。

町長答弁

清津川の現状は認識をしています。水量の増は只今調査している維持流量の増を願っています。名前を連ねた事は広域行政の中で魚野川三町に協力を致しました。